

2022年3月2日

住友生命保険相互会社

## スミセイ「わが家の防災」アンケート 2022

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳）は、ご家庭の防災対策の実態や意識を把握するアンケートを実施しました。

当アンケートは、毎年様々な地震や風水害等が発生する日本において、人々の防災に対する意識の変化や備えの状況について 2016 年から調査しており、今回で7回目を迎えます。

2021 年も、記録的な豪雪や猛暑、大雨による土砂災害が発生し、人々の命・暮らしを襲いました。被災された皆さまにはあらためまして謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興とご健康を、心からお祈り申し上げます。

### ◆調査結果の概要

#### ○最も備えが必要だと思う災害（3 ページ参照）

7年連続で1位は「地震」77.2%、2位は「台風」8.1%、3位は「大雨・洪水」5.6%でした。7月に土石流災害があった中部では、「大雨・洪水」が3.7ポイント上昇しています。

#### ○家庭の防災対策（4～10 ページ参照）

家庭の防災対策の平均点は「36.8点」と低く、年間の防災対策費の平均は「3,770円」でした。防災対策費が「0円」という回答は全体の半数となり、特に20代は55.5%と高くなっていることに加え、防災対策未実施者の割合（40.5%）も年代別でトップになっているなど、防災意識の低さがうかがえました。

#### ○自宅の災害危険度の把握状況（11 ページ参照）

「把握している」は僅か16.8%で、年代が下がるごとに低下しています。自宅の災害危険度の平均は「49.8%」、地域別では北海道が「75.0%」と突出しました。

#### ○避難準備・避難を行うタイミング（12 ページ参照）

警戒レベル（災害発生の危険度ととるべき行動を5段階のレベルで示したもの）を元に、避難を行うタイミングをきいたところ、「警戒レベル4 避難指示」の発令がなされた段階でも避難しないという回答者は45.7%にも及びました。

#### ○感染症のリスクがある場合の分散避難について（13～14 ページ参照）

災害時の避難先として、「市町村指定の避難場所・避難所」を挙げた人は、感染症リスクの有無によって10.7ポイントの差が生じ、一定数が密を避けた分散避難を想定していることがわかりました。また、感染症リスク有でも「市町村指定の避難場所・避難所」を選ぶ理由のトップは「最も支援を受けやすい」48.2%でした。

## 1. 調査概要

- a. 調査期間 : 2021年12月17日～12月20日
- b. 調査方法 : インターネット応募による選択方式および自由記入方式
- c. 調査対象 : 1,000人(全国の男女各500人)

調査対象者の内訳(人)

	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	全体
北海道地方	25	29	13	9	10	10	12	54
東北地方	32	30	10	16	14	9	13	62
関東地方	214	197	92	68	81	84	86	411
中部地方	78	78	32	37	31	33	23	156
近畿地方	93	90	35	34	35	38	41	183
中国・四国地方	35	38	12	23	14	14	10	73
九州地方	23	38	6	13	15	12	15	61
合計	500	500	200	200	200	200	200	1000

- 北海道地方 : 北海道
- 東北地方 : 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県
- 関東地方 : 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県
- 中部地方 : 新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県
- 近畿地方 : 三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
- 中国・四国地方 : 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
- 九州地方 : 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

## 2. 調査結果

### a. 最も備えが必要だと思う災害

7年連続で1位になったのは「地震」77.2%で、以下「台風」8.1%、「大雨・洪水」5.6%が続きました。

2021年の日本全国における地震発生回数は2,424回で、過去3年(2020年1,714回、2019年1,564回)で最も多くなりました<sup>※1</sup>。特に、地震の被害が少ないとされる中国・四国でも頻発し、その影響からか、前年比で「地震」が11.9ポイント上昇しています。

7月には、梅雨前線の影響により広い範囲で水害や土砂災害が発生しましたが、「大雨・洪水」は減少しました。土石流被害を受けた中部は3.7ポイント上昇しています。

「大雪・雪崩」は、北海道・東北で上昇しました。これは、調査時期において、ラニーニャ現象による大雪・寒波が警戒されていたためと考えられます。

### ◆あなたにとって最も備えが必要だと思う災害は何ですか。

(数字は%、○内数字は順位)

位	2022 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	77.2	79.6①	74.2①	84.2①	71.2①	74.3①	72.6①	60.7①
2	台風	8.1	1.9	3.2③	5.1②	8.3③	14.2②	6.8③	21.3②
3	大雨・洪水	5.6	1.9	3.2③	4.1③	9.0②	3.8③	11.0②	11.5③
4	津波	2.7	3.7③	1.6	2.2	3.2	3.3	2.7	3.3
5	大雪・雪崩	2.5	9.3②	9.7②	1.0	3.8	1.6	1.4	0.0
6	土砂災害	1.4	1.9	1.6	0.7	1.3	1.6	4.1	1.6
7	噴火	0.8	0.0	0.0	1.5	1.3	0.0	0.0	0.0
8	その他	0.8	0.0	1.6	1.0	0.6	0.5	0.0	1.6
9	竜巻	0.5	1.9	3.2③	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0
10	落雷	0.4	0.0	1.6	0.0	0.6	0.5	1.4	0.0

### 【前年調査】

(数字は%、○内数字は順位)

位	2021 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	76.1	70.2①	72.3①	82.6①	78.2①	73.8①	60.7①	59.4①
2	台風	9.3	1.8	3.1	7.5②	6.8②	13.8②	14.8②	20.3②
3	大雨・洪水	7.0	5.3③	12.3②	6.1③	5.3③	5.6③	11.5③	12.5③
4	津波	2.3	5.3③	3.1	1.2	2.3	2.6	3.3	4.7
5	土砂災害	1.5	3.5	4.6③	0.5	0.8	1.0	8.2	0.0
6	噴火	1.4	7.0②	0.0	0.9	3.0	0.5	0.0	1.6
7	大雪・雪崩	1.2	5.3③	4.6③	0.2	3.0	0.5	0.0	0.0
8	竜巻	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0	1.6
9	その他	0.4	0.0	0.0	0.2	0.8	1.0	0.0	0.0
10	落雷	0.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0

※1 出典：気象庁「震度データベース検索」

b. 家庭の防災対策

(1) 家庭の防災対策の評価

家庭の防災対策の平均点は、前年から微減の「36.8点」でした。年代別では、唯一前年から点数を上げた60代が7年連続で1位になりました。

地域別の上位3つは前年同様です。1位の北海道は、2018年に発災した「北海道胆振東部地震」以降は継続して35点以上となり、3位の九州は、2020年の「令和2年7月豪雨」をきっかけに点数および順位が大きく上昇しています。

◆ご家庭の防災対策に点数をつけるとすれば、100点満点中何点ですか。

【全体・男女別】

(数字は%、○内数字は順位)

	今回	前年	前々年
全体	36.8	37.4	35.6
男性	38.8	39.8	36.2
女性	34.8	34.9	35.0

【年代別】

位	年代	今回	前年	前々年
1	60代	42.8	40.4①	39.5①
2	50代	37.8	38.1③	38.2②
3	40代	37.4	39.4②	35.1③
4	20代	33.1	36.0④	31.6⑤
5	30代	32.8	32.8⑤	33.7④

【地域別】

位	地域	今回	前年	前々年
1	北海道	40.4	41.8①	35.0④
2	関東	38.7	39.9②	37.3②
3	九州	37.5	39.6③	30.0⑦
4	東北	35.9	32.2⑥	40.0①
5	近畿	35.3	36.2④	36.8③
6	中国・四国	33.7	34.3⑤	30.8⑥
7	中部	33.6	31.8⑦	33.4⑤

(2) この一年間で、新たに実施した家庭の防災対策

「特になし」が、前年からさらに数値を伸ばして1位になりました。新たな防災対策に取り組んでいる人は、「特になし」を除く56.6%と、前年(60.3%)より3.7ポイント減少しています。2位は「非常用飲料水の備蓄」、3位は「非常用食品の備蓄」が続き、以下9位まで前年同様のランキングとなりました。

◆この一年間で、ご家庭の防災対策で新たに実施したことは何ですか。(複数回答可)

(数字は%、○内数字は順位)

位		今回	前年
1	特になし	43.4	39.7①
2	非常用飲料水の備蓄	29.5	30.3②
3	非常用食品の備蓄	25.6	27.6③
4	非常用持ち出し袋の準備	20.8	23.3④
5	ハザードマップ(被害予測地図)の確認	16.6	19.0⑤
6	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	14.7	16.4⑥
7	避難場所・経路の確認	14.6	13.2
8	家具などの転倒・落下防止策	11.8	12.4
9	家族間での連絡方法の確認	9.3	10.0
10	家屋の耐震化	5.7	4.8
11	自治体や勤務先の防災情報メールに登録	4.7	6.9
12	防災冊子の入手・購入	4.3	5.0
	防災訓練の実施・参加		4.0
14	その他	0.5	0.1

(3) 一年以上前から実施している家庭の防災対策

一年以上前から防災対策に取り組んでいる人は、「特になし」を除く 51.3%で、前年 (51.2%) と同水準でした。その他のランキングについても、大きな変化は見られません。

◆一年以上前から、ご家庭の防災対策で実施していることは何ですか。(複数回答可)

(数字は%、○内数字は順位)

位		今回	前年
1	特になし	48.7	48.8①
2	非常用飲料水の備蓄	14.8	12.8②
3	非常用食品の備蓄	13.7	12.0③
4	家具などの転倒・落下防止策	13.4	11.3④
5	非常用持ち出し袋の準備	12.7	11.0⑤
6	避難場所・経路の確認	10.9	9.4
7	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	10.7	10.1⑥
8	ハザードマップ(被害予測地図)の確認	9.1	7.7
9	家族間での連絡方法の確認	8.7	8.4
10	自治体や勤務先の防災情報メールに登録	6.4	5.1
11	家屋の耐震化	5.6	4.1
12	防災冊子の入手・購入	5.3	4.8
13	防災訓練の実施・参加	4.4	4.9
14	その他	0.7	0.6

(4) この一年間の防災対策費

全体平均は前年から微減し、「3,770円」でした。男性より女性の方が294円高く、地域別の最高は「4,964円」の北海道でした。北海道が初めて1位になったのは2019年度調査の「7,680円」(表外)で、翌2020年度調査(前々年)でも「6,236円」と高額が続き、2018年発災の「北海道胆振東部地震」の影響が見られました。また、「令和2年7月豪雨」で被災した中部、九州は前年に大幅増となりましたが、九州では増加傾向が続きました。

「0円」回答は50.0%で過去3年の中で最も高く、20代は55.5%を占めています。

◆この一年間で、防災対策にいくら支出しましたか。

【平均金額：全体・男女別】 (円)

	今回	前年	前々年
全体	3,770	3,837	3,718
男性	3,623	4,540	3,530
女性	3,917	3,138	3,905

【平均金額：地域別】 (数字は円、○内数字は順位)

位	地域	今回	前年	前々年
1	北海道	4,964	3,547 <sup>③</sup>	6,236 <sup>①</sup>
2	九州	4,920	3,336 <sup>④</sup>	1,822 <sup>⑦</sup>
3	関東	4,018	4,713 <sup>①</sup>	4,541 <sup>②</sup>
4	中部	3,467	3,758 <sup>②</sup>	2,803 <sup>④</sup>
5	近畿	3,369	3,215 <sup>⑤</sup>	3,984 <sup>③</sup>
6	中国・四国	3,055	2,717 <sup>⑥</sup>	2,154 <sup>⑥</sup>
7	東北	2,741	1,931 <sup>⑦</sup>	2,222 <sup>⑤</sup>

【「0円」回答の割合：全体・男女別・年代別】

(%)

	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
今回	50.0	54.6	45.4	55.5	51.0	49.5	51.5	42.5
前年	49.6	49.4	49.8	55.0	51.0	51.0	45.5	45.5
前々年	48.6	52.2	45.0	55.5	54.5	46.0	51.5	35.5

(5) 今後、実施しなくてはならないと思う防災対策

1位から「非常用食品の備蓄」39.2%、「非常用持ち出し袋の準備」38.0%、「非常用飲料水の備蓄」36.8%が並び、上位3つは前年と同じ項目になりました。30代以上については同様の結果でしたが、20代のみ「特になし」32.5%が1位になっています。また、「特になし」は、30代も4位(28.0%)に入り、若い世代の関心の低さが表れました。

◆今後、あなたのご家庭で実施しなくてはならないと思う防災対策は何ですか。

現在対策済みのもも含めて回答してください。(複数回答可)

(数字は%、○内数字は順位)

位		全体	20代	30代	40代	50代	60代	前年 全体
1	非常用食品の備蓄	39.2	32.0 <sup>②</sup>	33.5 <sup>②</sup>	44.5 <sup>①</sup>	42.5 <sup>①</sup>	43.5 <sup>①</sup>	40.6 <sup>②</sup>
2	非常用持ち出し袋の準備	38.0	30.5 <sup>④</sup>	35.5 <sup>①</sup>	41.5 <sup>②</sup>	39.5 <sup>②</sup>	43.0 <sup>②</sup>	42.7 <sup>①</sup>
3	非常用飲料水の備蓄	36.8	32.0 <sup>②</sup>	32.5 <sup>③</sup>	41.5 <sup>②</sup>	38.5 <sup>③</sup>	39.5 <sup>③</sup>	40.1 <sup>③</sup>
4	家族間での 連絡方法の確認	27.1	23.0 <sup>⑤</sup>	23.5 <sup>⑤</sup>	27.5 <sup>⑤</sup>	26.0 <sup>④</sup>	35.5 <sup>④</sup>	26.1 <sup>⑤</sup>
5	家具などの転倒・ 落下防止策	26.2	21.0 <sup>⑥</sup>	23.5 <sup>⑤</sup>	31.0 <sup>④</sup>	24.5 <sup>⑤</sup>	31.0 <sup>⑤</sup>	27.6 <sup>④</sup>
6	特になし	23.2	32.5 <sup>①</sup>	28.0 <sup>④</sup>	24.5 <sup>⑥</sup>	15.5	15.5	21.1
7	寝室に懐中電灯や スリッパ等を用意	22.7	21.0 <sup>⑥</sup>	19.0	24.0	24.5 <sup>⑤</sup>	25.0 <sup>⑥</sup>	25.6 <sup>⑥</sup>
8	避難場所・経路の確認	19.4	18.0	20.0	16.5	20.5	22.0	22.6
9	ハザードマップ (被害予測地図)の確認	19.1	17.5	17.0	21.0	17.5	22.5	17.8
10	家屋の耐震化	14.9	15.0	12.0	14.5	18.5	14.5	15.4
11	自治体や勤務先の 防災情報メールに登録	11.2	11.0	6.5	14.0	11.0	13.5	12.0
12	防災訓練の実施・参加	9.5	12.5	5.5	9.5	9.0	11.0	9.3
13	防災冊子の入手・購入	7.8	11.5	6.0	7.5	6.0	8.0	7.7

※「その他」：全体 0.8%、20代 0.5%、30代 0.0%、40代・60代 1.0%、50代 1.5%



#### (6) 防災対策未実施の理由

防災対策を実施していない人は 31.5%で、その理由については「特になし」という無関心な回答が 43.2%を占めました。年代別では、若くなるにつれて未実施者は多くなり、20代では 40.5%に上っています。また、20代の防災対策未実施の理由は「特になし」が 53.1%と高く、今後取り組む可能性がある「つい先延ばしにしてしまう」は 9.9%のみでした。

一方、「やっても無駄」という回答は 3.8%と低く、60代の回答はありませんでした。

#### ◆この一年間または、それ以前から防災対策を実施していない理由は何ですか。(複数回答可)

※現在、実施している防災対策が「特になし」との回答者(315人)対象

(数字は%、○内数字は順位)

		全体	20代	30代	40代	50代	60代
位	人	315	81	77	61	54	42
	%	<u>31.5</u>	<u>40.5</u>	38.5	30.5	27.0	21.0
1	特になし	<u>43.2</u>	<u>53.1</u> ①	40.3①	34.4①	35.2②	52.4①
2	何をしたらよいか分からない	27.3	30.9②	31.2②	24.6③	25.9③	19.0③
3	つい先延ばしにしてしまう	27.0	<u>9.9</u>	31.2②	27.9②	<u>38.9</u> ①	35.7②
4	面倒	20.6	18.5③	22.1	23.0	25.9③	11.9
5	お金がかかる	13.0	11.1	11.7	21.3	11.1	9.5
6	やっても無駄	<u>3.8</u>	2.5	5.2	8.2	1.9	<u>0.0</u>

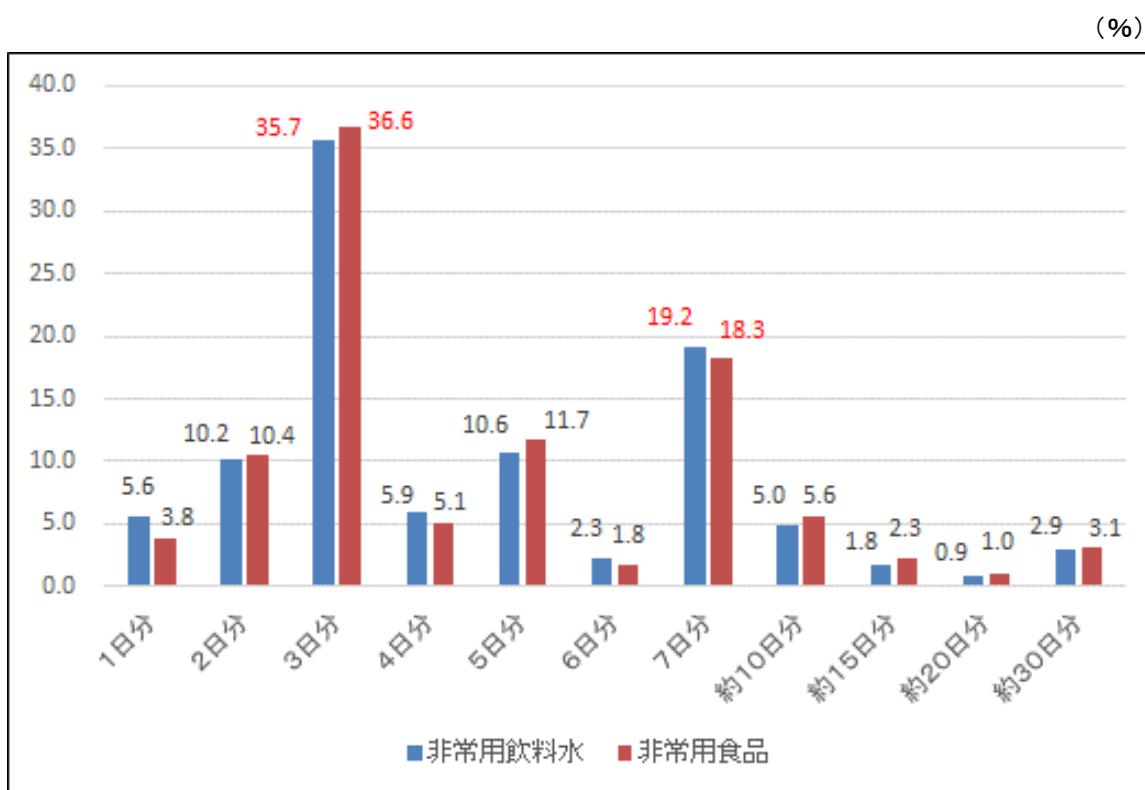
※「その他」: 全体・全年代 0.0%

(7) 非常用飲料水および非常用食品の備蓄量

非常用飲料水（対象者：443人）および非常用食品（対象者：393人）の備蓄については、「3日分」、「7日分」を用意している人が多い結果となりました。これは、国や地方公共団体等が推奨する“最低3日分、大規模災害に備えてできれば1週間分”に倣った結果になっています。その基準に満たない「2日分」以下の回答は2割以下（非常用飲料水 15.8%、非常用食品 14.2%）でした。万一のために、防災備蓄は多く備えておきたいものです。

◆ご家庭で、何日分の非常用飲料水および食品を備蓄していますか。

※防災対策として「非常用飲料水の備蓄」「非常用食品の備蓄」を行っている方が対象



※「それ以上」：非常用飲料水 0.0%、非常用食品 0.3%

c. 自宅の災害危険度の把握状況

現在では様々なツールを用いて自然災害の予測や対策が可能になっています。しかし、それらを活用し、自宅の災害危険度を把握している人は僅か16.8%のみでした。

「把握している」は、年代が下がるほど低下し、20代(6.0%)と30代(8.5%)では1割未満となりました。地域別では、最高値が九州の23.0%、最低値は中部の11.5%でした。

また、「把握している」の回答者に自宅の災害危険度を聞いたところ、平均は「49.8%」で、北海道は「75.0%」と突出して高くなりました。

◆ハザードマップ等を用いて、ご自宅の災害危険度を把握されていますか。

【全体・男女別・年代別】

(数字は%、○内数字は順位)

	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
把握している	16.8	18.6	15.0	6.0⑤	8.5④	19.0③	20.5②	30.0①

【地域別】

(数字は%、○内数字は順位)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
把握している	13.0⑥	21.0②	17.3④	11.5⑦	16.4⑤	20.5③	23.0①

【危険度平均：全体・地域別】

(数字は%、○内数字は順位)

全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
49.8	75.0①	51.2②	48.3④	48.3④	51.2②	47.0⑥	45.7⑦

d. 避難準備・避難を行うタイミング

2021年5月から、市町村が発令する「避難勧告」が廃止され、「避難指示」に統一されました。避難および避難準備を行うタイミングで最も多かったのは、“避難するタイミング”が「警戒レベル4 避難指示（危険な場所から全員避難）」35.1%で、“避難準備を行うタイミング”がその1つ手前の「警戒レベル3 高齢者等避難（危険な場所から高齢者等退避）」32.8%でした。

特筆すべきは、避難指示にあたる「警戒レベル4」の発令がなされた段階でも避難しないという回答者が45.7%（「警戒レベル5」24.2%と「避難しない」21.5%の合計）にも及ぶことです。

◆災害時、自宅が危険な場所である場合、避難準備・避難を行う警戒レベルを教えてください。

（数字は%、○内数字は順位）

警戒レベル	状況	行動を促す情報	避難準備	避難
警戒レベル1	今後 気象状況悪化のおそれ	<b>早期注意情報</b> 災害の心構えを高める	5.6⑥	3.5⑥
警戒レベル2	気象状況悪化	<b>大雨・洪水・高潮注意報</b> ハザードマップ等で避難行動を確認	9.8④	3.6⑤
警戒レベル3	災害のおそれあり	<b>高齢者等避難</b> 危険な場所から高齢者等退避	32.8①	12.1④
警戒レベル4	災害のおそれ高い	<b>避難指示</b> 危険な場所から全員退避	23.0②	35.1①
警戒レベル5	災害発生または切迫	<b>緊急安全確保</b> 命の危険 直ちに安全確保！	6.9⑤	24.2②
避難準備または 避難しない	—	—	21.9③	21.5③

※警戒レベル1～2は気象庁発表、3～5は市町村発令

e. 感染症のリスクがある場合の避難先と分散避難（密を避けた避難）について

(1) 感染症のリスクの有無による避難先の違い

災害時、自宅が危険な場所にあるという前提で避難先をきいたところ、「市町村指定の避難場所・避難所」が最も多く挙げられました。ただし、密を避けられない側面もあるため、感染症リスクが“ある場合”の数値は“ない場合”に比べて10.7ポイント減少しており、一定数の方が分散避難を想定していることがわかります。

その他、自宅以外の“家”（「親戚宅」・「知人宅」）について感染症リスクの有無による数値の変化（感染症リスクが“ある場合”、“ない場合”に比べてどうなるか）を見たところ、「親戚宅」は変化なし、「知人宅」はマイナス1.5ポイントとなりました。感染症流行下で密を避ける必要があっても、自宅以外の“家”は分散避難先にはなりにくいようです。

また、自宅が危険であるという前提にも関わらず、「自宅（避難しない）」との回答者は感染症リスクの有無に関わらず3割を超えました。

◆災害時、自宅が危険な場所であれば避難する必要があります。

感染症（新型コロナウイルス等）のリスクがない場合とある場合において、あなたが避難する場所（自宅以外は危険でないことを想定）を教えてください。（複数回答可）

（数字は%、○内数字は順位）

	感染症のリスクが		
	ない場合	→	ある場合
市町村指定の避難場所・避難所	52.0①	-10.7	41.3①
自宅（避難しない）	33.0②	+ 2.9	35.9②
ホテル等の宿泊施設	11.9③	+ 4.6	16.5③
車中	11.0④	+ 3.1	14.1④
親戚宅	9.5⑤	± 0	9.5⑤
知人宅	3.8⑥	- 1.5	2.3⑥
その他	1.1⑦	± 0	1.1⑦

## (2) 分散避難（密を避けた避難）が進まない理由

感染症リスクがある場合でも、41.3%が密を避けられない側面のある「市町村指定の避難場所・避難所」を選択しましたが、その理由のトップは「避難所が最も支援を受けやすい」48.2%でした。5位の「取り残されて、支援が受けられないのではないかと心配」も14.3%が回答しており、分散避難した後の“支援”について、多くの方が不安を抱いていることがわかります。

日頃からの地域コミュニティや“人”との関わり度が影響する、7位「自宅に避難させてくれるような知人がいない」12.6%、9位「自宅に避難させてくれるような親戚がいない」11.6%は1割を超える結果となりました。また、5.1%が「小さい子どもや要介護者を連れて避難できない」（13位）と回答しており、避難行動要支援者への対策が急務となっていることがわかります。

- ◆感染症のリスクがある場合、分散避難されない理由を教えてください。（複数回答可）  
※感染症リスクありの場合の避難先が「市町村指定の避難場所・避難所」との回答者（413人）

位	分散避難をしない理由	%
1	避難所が最も支援を受けやすい	48.2
2	ホテルや宿泊施設はお金がかかる	21.5
3	避難所の感染症対策が充分	21.1
4	安全に避難できるホテルや宿泊施設を把握していない	19.9
5	取り残されて、支援が受けられないのではないかと心配	14.3
6	避難時のホテルや宿泊施設の空き状況が心配	12.8
7	自宅に避難させてくれるような知人がいない	12.6
8	馴染みのない場所に行くのが不安	12.3
9	自宅に避難させてくれるような親戚がいない	11.6
10	車がない	9.2
11	ペット（犬、猫等）を連れていけない	8.2
12	知人・親戚宅は、感染対策をとりにくい	7.3
13	小さい子どもや要介護者（高齢者や障がい者）を連れて避難できない	5.1
14	その他	0.7

以上